

と田畑和え、此の珍妙な料理が各層の郷愁を一度にかき立てるらしい。あ、ハストスなる哉と三嘆之を入しうするといふ。その名所たる大野養鯉場も土未上つた今日此を上から教えて見れば三十四五枚の四角な池の点綴だが、その昔大野さんが一族を引き連れ、バストスに入植した頃は、へんてつもない鰻のネドコと呼ぶ此の短冊型の一口ッテに過ぎなかつたし、自分の土地に池が出来るとは夢にも思はずかつたであらう。ところが入植して数年もたつたのは、何となく自分の土地に愛想をつかして退植する人があつた。はじめたが大量転耕がはじめてバストス崩壊の兆が見ゆる迄、大野さんは、いづくの草原になるともワシは動かんと決心して、いたから隣接の土地が売り物になつた時、速座に買収した。それは毎日小高い自分の丘上から眺めると、自己の土地の裾と隣の丘とを合併すると一つの熟地をなす形、成し下手を堤防で区切ると十歩歩以上の水田が出来るといふような夢をもちはじめた。いたからであらう。よし米成全になつてやれ、と大野さんは決心したのだ。そうである。

その翌日から大野さんの土工安が両地の凹みにあつた。降つても晴つても一日中して欠かさず自己設計の水田造りに熱頭で降はバストスは綿花の一大生産となつていたから綿を作らぬ百姓はない。大野さんの地はよりもつと高台になる。大野さんの農家が勿論綿作りをやつてゐる。その綿畑は馬耕されて草一本ない。大野さんによる表土の流失は恐ろしい程で、雨来ると大野さんの水田は忽ち濁流で埋つてしまふ程損害を蒙るのであつた。

下りやいかに、高台へユ一なりフトを植えるかバストスにて牧草をまくか、とち道排水溝を作り貯水池を作つて上手に、辛棒がよい大野さんはトラクトもカミニオンも買はないで、手押車とモッコで土を掘り上げて堤防を作り、ヤツと高台近くは百平米方の野水池を築いた。折用作つた池にサッポウかき泳がすのも、氣のきかぬ話だ。一つ金魚でも放すかと思ひつゝ、夫のが大野養鯉場もその娘の嫁りであつた。パラガス一方向から下り、鯉の苗を入手して飼つて見ると中々成績がよい。二ヶ月、三ヶ月、メダカ釣竿を重たせると金魚はどつた。稚魚が一キロ位にふくれ上つて、メダカと跳ねた時は、大野さんの顔はエビス様の髯を抜いたよう。泣き笑いであつたと言はれる。

大野さんが水田説を放棄して鯉池に変わらしたのも、勿論自己の獨創によるが、よつて来るところの洞窟力、即ち将来への見

遠しなるもの、内裏のよくする純は、このころ、式河者に運は、いらぬと言つた。さきの聰明さと言ふの外なからう。かくて是れ、今、今日よわい七十五歳に至る迄、大野さんは、休むところを知らなかつた。大野さんは、もういふ点で大成切者である。数年前から鯉の賣り上金たぐひで、さうばかり、年産二百コントを越す。さういふのは、数年前のことであつた。その間に高台の表土流失を防ぐ為め、一流一月

Casa Maeyama



内國品・日本品
 食料品・飲料水
 よい品をお安く……
 中でも白米は断然
 お安く差上げます
 ジャカレー印石油着荷
 今週の特賣品
 おしりせ!

前山商店

の土地を買収し、近隣で立ちのく人の土地は片端しから金使ひ、今や所有土地も百アルケールに余り、エーカリ植林から、故牛数百頭の大牧場からの収益もおびた。これは五十歳を當時一ツが二ツ超えた大野さんが、そんな大仕事を一人になし、少たである。勿論カマラ、おは四五人毎日身近において力仕事を命じたが、大野さんをして後顧の憂なからしめる力はなかつた。それは言ふだけ、野暮な話だが、大野さんに英雄さんという長男のあつた。大野さんの外に男子二人、女子二人の子福者であつた。此の大仕事をなすべく、これら五年結婚五十年記念を祝ふことに

つて居るまつの丈人の内助の功を忘れる
 はならぬといふあるう。大野さんが何ほや
 止がま人を張つて長男長女を産む際陽の
 助力がなかつたら到底此の計畫はならぬ
 かつたに相違ない
 兵力分故という兵法を大野さんはここ
 に於て実に適當に実施し各分隊を隊長
 の命を賭して策戦をあげまわなつたこと
 は大野農場今日の大をなす最も大なる系
 図と言はねばならぬであらう。

この近は筆者がこと改めて書かなくては
 もバラストの住人なりとすたも知つてい
 る話だがこの大野さんが日露戦役にな
 木軍に従つて旅順攻撃軍に加はりキンシ
 ンランの功大級を拝受した大勇士である
 ことを知らぬ人は多いと思ふし、又それ
 程の過去をもつた人の話を近くと十七の
 此の祝をする本人の口からきいて綴つて
 おくのも人物点描の役目柄から
 して無駄なこととも思はれぬので一日若
 き日の大野さんを暇にえがき下ら思ひ出
 訪をきく機会を得た。前者書くの如し
 (未完)

日本よりの手紙

本人ならぬと近もないこと、お
 知り合いならぬとせしむ知らせて下さい

- (受取人)
- 藪田みち子様 和哥山 藪田重信
 - 石田みつ子様 東京 木村京介
 - 長岡みせ様 福岡 Z. 星野
 - 信太兵衛様 北海道 島田芳雄
 - 奥山忠三様 山形 奥山一
 - 奥山辰吉様 北海道 佐藤基
 - 高橋清五郎様 山形 阿蘇喜内
 - 赤田スイ様 東京 赤田忠男
 - 佐藤 茂人様 東京
 - 三月八日附 奥木保様 アビーズ
 - 西本ノボル様
- 此の外に伯國々内の手紙が沢山ありま
 す、心あたりの方は左記へおいで下さい
 手紙保管人 植木商店

讓店

食料品雜貨その他
 目抜き場所、客筋よろし
 商品はバランサの上、居抜のまゝ
 手不足転業の爲め格安にゆがる

週報社仲買下
 姓名在社 A C O Y

バラスト又哥會報 三月十三日 ついき

席題 秋

總得点 秋 扶美 菊子
 一位 四位 哥
 秋茄子の色よき漬物残りい
 夕餉の卓をかたづけ拭く
 下のペンキに畫條する音きた
 届く秋日のうらひ早し
 二位 三位 哥
 返り咲く夕陽の花にやわらかく
 秋日のさして今日も暮行く
 三位 二位 哥
 秋花生値安けれと賣ると言ふ
 声々をきく初秋の巻に
 以下一首
 文をす穂草にそぐ秋の雨
 羊腸の経は枝に光りぬ
 包がさし蜜柑ちきりて玄手の秋
 別れし人と思ひはせたり
 日を追ふて熱帯を色づくランジヤを
 秋めぐり来しと思ひつ、仰ぐ
 畑みな自穂となり秋たちぬ
 今宵の月は冷々として
 おかたむける空家の庭にアロマ
 咲きりニリむて秋は来にけり

扶美 一男
 菊子 一男
 夜詩緒
 修水
 東風
 羊鈴

書留便 アビーズ

受取人
 上田 哲史 (市街地) ?
 田中 順次 (ホシヤン) ?
 カタリナ ナニモ
 Kawana Miyako de Tanyoko Taiso
 中心当りの方は植木商店へゆきより下
 さい、アビーズ差上げます

お待たせ致しました

御注文下さった方々へ
 御しらせ申上ります

みの早生大根 日本産
 みの九日大根 新種子

その他タネモノいろいろ
 登芽保証

おなじみの

植木商店

日本よいとこ一度はおいで

橋本、人旅空の巻

三月十二日 寓真誠座談会

2

橋本「どうも話が初めから脱線したようだから今度方向をかえて旅行の順序からやろう。昨年六月下旬聖市X軍用飛行場を朝え時にスタート。何しろ七十人乗りの大型なんだからソリンの搭載量なども相当なゆんだ。だからC空港では滑走路が短かくてとべないのだからハルシーのリマまで直航九時間だった。乗客は七分の空いた席に日本人がいたんで話にいったりした。スエアテスがサービスマンとして色々説明するがスペイン語がよく判らなかつた。高度は平均六千米といつたがアンチス燃えの時は七千米だった。早川司會「エアオペットなどありましたか」

橋本「それは氣がつかないが、揺れることには大分揺れたね。カエーなど勿論こぼれるし、どうもやはり氣持ちはよくないね。ここにこの寓真座談会、テスの時眼が、よくとれてゐる。半青い顔になつた。紳士諸君も大分まいつて吐いた人も可なりあつた。途中は時計を三時間進めたんで到着した時は九時過ぎだ。たろな。この飛行機はリマまで聖朝カナジアンハシソックコフパニ、機にのりかえるんだ。ところでリマは何か知らんが討日感情がわるくて、いは排日都市だ。夜分の外は危険だと注意を受けていたが、このまゝの中央街まで押し出して見た。タクシ、若割合親功でハホネースのレストランテがあるからつれていってやる。人で案内された。その日本人はリマ最古の人で、倅というのが三十位の青年だ。が日本語がとて上りだ。学校へ行つたんで、さかどきと、獨学で早稲田講義録を勉強したという話だった。長くなるから省くが、自分たちの様なり、まに古い者は中央街で何か無事に切りぬけて居るが、日本人の發展などという話はない。この國の政策が変更されぬ限り望みはないと悲觀説だった。リマに比べたところ、ラジナルなぶは其の点実にありがたいことだと思ふ。そのレストランテに一時同居して主人の苦心談なるものをきいて、いざ帰ろうとする。夜更けには無頼漢が居る。日本人に喧嘩をふつかけることがあるから、倅に飛行場まで送らせようと思つた。親功に

お別れの言葉

私儀

この度び都合によりナンパリ口市へ移転することになりました。省みれば二十有餘年御当地の御世話に相成り、皆様より一方ならぬ御愛顧、御引立にあづかりまして誠にありかた、御礼申上ります。長らく任み刺れた心の故郷、バストスを去るのには誠に御名残り惜しくは御座います。皆様の御健康と御幸福を祈りつゝ、御別れいたします。何卒将来とも御交誼の程よろしく御願申上ります。尚出發に當り御丁寧なる御饞別などいたゞき紙上にて失礼乍ら重ねて御礼申上ります。三月十六日バストス出發に當り 後藤洋服店主 桑 条 藏 敬白

AVINDA CURSINO No. 2427 Vila Morais Sao Paulo (住所)

各位

ホテルに泊つた。翌日のコースがリマからメキシコ。メキシコシナイで二時間程休憩があった。ところがその空港の事務所に日本女性の接客員がいて、とてもきれいな日本人も盛んに話をする。あどむきい。見ると三年前に日本から来た人で、僅かの間にメキシコ語(スペイン語)を覚え、英語も「ラ」だ。こういう女性が進出して居るのを見ると日本人として大いに肩身がひらかつた。カナタのピクトリア近所用時間八時間と書いてたが地図で見ると聖市リマ間よりあつと遠い。速度は毎時三百キロ短縮されて居る。ピクトリアでも救急車を相だが乗って居れば、ちつとも救急車は適な旅だ。ピクトリアでも救急車は休んだ。ガソリン補給や機体の点検が相だ。食事は時間毎に氣のきいた膳が出て、椅子の前に取りつける。ワシも初めての旅なんでもつてくるものは片はれから平らな旅だ。旅馴れた人は旅人と機中で食事をとらさず空港へついた時レストラテで食べている様だ。ピクトリアからアラスカ方面へコースは奥北へ、と思つていていつの間にかアリコーシマン群島を傳つて西進し

早川「フーム富士がやっほりせんな遠く

橋本「高坂六千米だから視界は広いわけだ。もうその時分には陸上の上空を駆けていると思はれたが富士の印象は全くすぼりしかなかったよ」

早川「羽田へは何時にお着きでしたか」
橋本「九時が過ぎりだつた。飛翔時間三十八時間といえわけど、出発前に通信しておいれたから甥が迎えに来ていた筈だ見渡した処は居らんようだが、日とまちがえる筈ないが、東半球から西半球に旅をする途中で一日、日が短縮されて、どうもそこんとニガヤヤこい

がなとと考え乍ら最後にエスカレーター降りると「ヤア叔父さん」とワシの甥が二人ニコニコ立っている。「何んだお前達来ていたのか、何故手も振らんのか」というと「さっさから振ってあげてあげてくれんか、叔父さんが向うはかり見てて判らなかつたんだ、お程少し感慨にふけり過ぎて、うっかりしていたかな、羽田で撮ったのがこれだ」

「さアいよ、橋本さん、日本へ着いた、これから又面白い話だ」
橋本「オアアアパンの話はごめんた(笑)東京見物はあとまわして、とりあえず早くへ帰ることにした」

○「橋本さん何果てますか」
橋本「山ばかりの山ナシ果だ、富士山の裏側よ、甲府迄汽車で、それから又何十キロと山奥なんだが」

○「オニアスの發達すまうさ何か」
その田舎へさ、甲府から一日に何回となくオニアスが往復するんで実に便利になつたものだ。

ワシの村はかりいらない全園をまで乗合はすこい發達振りだそうだが、單に所から村へと行った田舎コースだけになく、北陸から伊勢参宮バスがある、越後から奈良見物バスが行く、とんでもない遠方から京都大阪遊覧車が出かけるという、昔々の想像も及ばぬ交通の發達ぶりには全く驚いてしまった。

橋本「川道は舗装されていゝ人ですか」
早川「いや中々、そうはいかん、東海道とか中央線といつても中々舗装は充分でない相だ」

○「オートバイ時代」
橋本「大資本時代だね、ワシ等の果でも富士鉄道ももつていた財閥をがそれを國鉄に賣つてその代り、大した乗合軌道の権利を獲得して水、東海道線まで押出して、いるが本線なごえはすぼりした豪華車を配属して、そりや大したものだ田舎の支線でもオニアジルの田舎バス以上のものを便つていゝよ、それがら、かわつたと思つていゝよ、オートバイがある、昔は交番や駐在所のあまわり

シツ子才 賣り度し
場所 ウニオン五區三組七十二号地
ランシャリア街道沿ヒ、所から三キロの地点
面積 十アルケール
建物 木造住宅(マラセス家根五室) 一棟
養蚕室 7x33米
倉庫 4x2x6米
委細面談
ウニオン五 72
三宅 久吉

カフエー苗
特別社立の完全なる苗
ムンド・ノイボ種の
カフエー苗
任宅のまわりにも、たとえ十本でも二十本でも、植えてごらん下さい
庭木として美しいものです
シヤーカーラ
角藤種苗園

○「電報」
橋本「電報の利用者も多いんかろう、この局へいって、巨魁によつて所要時間が明示されていゝ、例へば甲府から青森へ打つと二時、北海道の旭川へ打つと三時間半、日本の端からハシへ打つて三時間半が四時間が一番長い時間だ、ワシはバスタースカラサンハウロへよく電報を打つが早くてその日のうちに届くはよい方だ、サンハウロからの返電だと三日がかりの時もあるよ、このういふ点の發達は實際すぼりいもんどとつくと、感心した、そいで田舎だと配達人が例のオートバイで来たうちに届けてくれるんだ、実にさむらいがいいね(つづく)

Imposto de Radio
ラジオ聴取税十新
三月中旬におさめて下さい
期限ハツサするとムル夕附
バスター郵便局

バストス警察署長より

告示

Delegacia de Policia de B. Stos

Edital

O Bacharel Diolma Silva, delegado de Policia deste Municipio de B. Stos, Tomaca de Jute, Estado de São Paulo, no uso de suas atribuições legais, Toma Publica que, de acordo com a Realan no. 23, de 19 de março de 1955, do Sr. doutor Delegado Regional do Policia de Marilia e Artigo 152 do Decreto 3.010, de 20 de agosto de 1938, Os Estrangeiros port. dones de Carteira Modelo 12, decendo fazer nelas anotadas os endereços de sua residência e local de trabalho, deverão por intermédio de sua residência e local regularmente dirigido a esta Autarquia Policial, Solicitar referidas anotações. Publicque-8e e Cumpha-se. B. Stos, 21 de março de 1955. O Delegado de Policia, (Diolma Silva)

前記葡文の意味は大畧左の通り

聖州ツパン県バストス郡所属警察署長がシヨルマシルバ氏若し去る一九五五年三月十九日附でバストス地方警察署長公布シルクラ、ル第二三号の再通告があるが、即ち一九五八年八月二十日法令第三〇一〇号第一五二項による外国人職手モテロテ凡の所持者は、住所及就働場所を正規の書類として当該警察署に申請しなればならずせん右通告より履行され度し一九五五年三月廿一日

バストス警察署長 署名

カルテイライテンチターネ、ハラ、エストランセーロ、の表紙裏に最下部欄外に「D. J. Mod. 19」としてあり、多くはバストス東部市で取得して居るが中にはバストス東部市以外に取得した者も有る。尚右のレケリメントは、東部警察署、林事務所、バストス商業公社事務所、キニ氏、等に依頼されるがよろしからうと思はます。不明の点は為念前記事務所へ問合せ下さい。(棒読より録半は参考迄に書いたるもの訳文ではありません)

昭和三十年三月十日 在聖市 總領事館 C.P. 三六一番

尋ね人(才五号)

左記の者の現住所を知りたいので本人又はその消息を御承知の向け至急者館宛御一報煩わしい

バストス連合日本人会御中

記(日本からの手紙にあり)

- 一 石島果人 谷口一意、今オクガ
- 二 香川果人 杉井孝明
- 三 愛知県果人 佐藤貫一、とみ、二市、謙治
- 四 福岡果人 田中善作、シス、明
- 五 〃 本田近太郎、ヒサ、儀三郎、弥作
- 六 石島果人 田川有野、松男、竹野、豊
- 七 熊本果人 佐藤久夫、佐九郎、ソテ
- 八 大阪府出身 岡野豊十郎、さき、豊方、安明
- 九 香川果人 錦田徳藏、君代、美知子、陽子
- 十 石島果人 佐々木友吉、牛江、政信、正治
- 十一 北海道出身 岡田兼治、ハルヨ、英一
- 十二 元〃〃市在住 尾崎英吉
- 十三 福岡果人 高橋敏之助
- 十四 熊本果人 藤原敏秋
- 十五 大阪府出身 河村萬藏、ますの、卯之右、渡道
- 十六 石島果人 松本正人、富子
- 十七 北海道出身 佐藤庵、芳
- 十八 元〃〃市在住 寺島省三

右の内十七、佐藤氏は元ボシ外に居住せし人と思ひますが御存知の方日東道長方送付しうせしとい

ドトール伊波 就任おくる

本紙前週分二五八二号にバストス病院新任ドトール伊波、ジヤセ、伊波先生既に着任したと報導したのは誤りでありました。三月二十九日のひましたのて左様御承知下さい。

家族調書用紙について

昨年十一月末メ功総領事館へ送る家族調書の集りが悪いのに着目して用紙を持ってくる者があると、よく新聞にのって居るがバストス連日会書記長重道氏、一月程前、領事館へ行つた処バストスにある者から貰へと言はれた未ましたと申す人未だた男があつた。重道さん、残つて居る用紙六十枚を何氣なく渡したが、あとで考えて見ると、それを悪用するのではなかつたかと心配して、住所も名前も手技かりであつたと言つて居る。もし重道氏から受取つた人がバストスの方なら、悪用するのではなかつた旨申出でいたさる。バストス管内は大畧昨年メ切日迄に既に發送して居る筈である。